

22. 島田小学校（地域団体等）への「魅力ある学校づくり構想」の検討状況説明会・質疑応答（概要）

○日 時：平成 29 年（2017 年）2 月 24 日（金）18 時 30 分～

○場 所：島田小学校

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>これから南部地域を市としてどうしていくつもりなのか。昔は子どもが多く、教室が足りないくらいだった。</p>	<p>南部地域につきましては、人口減少及び少子高齢化が進んでいる状況です。市としても、どのように人口を増やし、活気を取り戻していくのか、地域の方々のご意見を聞きながら検討し、来年度、とりまとめる予定の（仮称）南部地域活性化構想の中で具体的にお示ししていきたいと考えています。</p>
<p>なぜお金をかけて耐震工事をしたのに、島田小学校の子どもを野田小学校まで行かせるのか。庄内宝町から野田小学校まで、大人が歩いて 42 分もかかった。低学年の通学が心配である。</p>	<p>庄内宝町から野田小学校に通うとなると、距離も長く、通学に不安がある点につきましては、これまでも同様のご指摘をいただいています。今回の意見も持ち帰り、検討させていただきます。ただ、なぜ野田小学校の敷地に小学校 3 校を集め、仮開校するかという、教育の中身を充実させるために、3 つの小学校が同じタイミングで合流し、仮開校することが望ましいと考えたからです。</p>
<p>将来庄内地域の子どもの数が増えたらどうするのか。新しい学校では、教室が足りなくなるのではないか。</p>	<p>資料にもお示ししましたとおり、1 学年につき 5 教室まで確保したいと考えています。庄内地域の人口が増加し、5 学級では収容しきれなくなる場合は、学校跡地を利用し、新たな学校を整備することも含めて今後検討していきたいと考えています。</p>
<p>平成 23 年(2011 年)12 月に耐震工事をする、という説明会があったが、その後業者決定が伸びてしまい、やっと一棟耐震化できた。もし、島田小学校の子ども達が野田小学校に通うことになるのなら、2 年間しかプレハブ校舎を使用しないことになる。短い期間のために、プレハブ校舎を建てる必要があるのか。もったいないのではないか。</p>	<p>入札不調が重なってしまい、結果としてこのタイミングになっていますが、今いる子どもたちの安全確保を優先するとともに、費用の低減を考慮し、耐震性能を確保する最善の方法としてプレハブ校舎を建設するものです。</p>
<p>耐震工事の流れについて教えてほしい。プレハブ校舎を建てた後、今ある校舎は取り壊すのか。その後の跡地の使い方はどうなるのか。</p>	<p>入札不調が続き、地域の皆様にはご迷惑をおかけしており申し訳ありません。北館を 4 階建から 3 階建に減築する工事は終わっています。平成 29 年度（2017 年度）にプレハブ校舎を建設し、平成 30 年度（2018 年度）に残る 3 棟を取り壊し、残っている北館とプレハブ校舎等を渡り廊下でつなぐ予定です。その後の学校跡地の活用方法については、まだ何も決まっていません。構想が固まった後、具体的に検討していくこととなります。</p>
<p>私は、子どもの見まもり隊をしているが、庄内幸町図書館の交差点について、子どものたまる場所が狭く、スペースや歩道の確保が必要ではないか。阪神高速の西側に</p>	<p>庄内幸町図書館前の交差点について、歩道を広げるには用地買収等が必要ですので、今後関係部局とともに検討していきたいと考えています。阪神高速の西側から第七中学校側に渡</p>

<p>住んでいる子どもの対策も必要である。第七中学校へ行く方にある阪神高速下にある歩道橋、五色温泉前の横断歩道は子どもが通学するには危ないと感じている。</p>	<p>る陸橋は、今回通学ルートとして想定しています。五色温泉前の横断歩道はご指摘のとおり、危険であると考えています。通学の安全確保につきましては、構想が固まった後、関係部局等とともに具体的に検討していきたいと考えています。</p>
<p>工事について、もう少し具体的なスケジュールを教えてください。</p>	<p>プレハブ校舎建設の工事着手は6月中旬、工事の完了は平成30年（2018年）3月の予定です。春休みに職員室等の引っ越しを行い、4月より使用します。その後、残っている3棟の校舎を取り壊す工事に取り掛かり、平成31年（2019年）3月に解体が終了する予定です。</p>
<p>庄内の都市計画や再開発の進捗状況はどうなっているのか。</p>	<p>庄内地域は密集市街地であり、防災面の課題があります。防災性を向上するため、穂積菟江線など道路の拡幅等を進めています。過去、庄内の再開発の取り組みも進めてきましたが、計画どおりには進んでいないのが現状です。行政だけで進めていくのは難しく、地域の皆様や、民間事業者等の力を借りて、今後進めていきたいと考えています。来年度は（仮称）南部地域活性化構想を作成する予定です。</p>
<p>豊中市内の校舎の耐震工事は終わっているのか。</p>	<p>豊中市の校舎の耐震補強工事は、島田小学校と第四中学校が残っており、第四中学校では、現在工事中です。平成29年度（2017年度）中に新校舎を完成させ、平成30年度（2018年度）中に残っている校舎を取り壊す予定です。島田小学校は平成29年度（2017年度）中にプレハブ校舎の建設工事が終了し、平成30年度（2018年度）に第四中学校と同様、残っている校舎を取り壊す予定です。耐震性能の確保という意味では、平成29年度（2017年度）にすべて完了する予定です。</p>
<p>昔あった庄内再開発室は解散してしまっている。再開発が進まないからやめたのか。今までの経緯に対する疑念がある。</p>	<p>庄内再開発室は、密集市街地の解消等をめざしてハードを中心とした整備を行っておりました。これまでの施策を整理することも含めて、来年度、（仮称）南部地域活性化構想を作成する予定です。これまでの施策を検証し、今後どのように具体化していくのかを考え、実行していきたいと考えています。</p>
<p>庄内地域に9年制の小中一貫校を2校新設する、ということだが、庄内地域だけではなく、豊中市内の北部中部にも、どんどん作ってほしいと思う。</p>	<p>全国で実践されている小中一貫教育の事例をみると、施設分離型よりも施設一体型の方が、教育的な効果がより高まる傾向にあります。しかし、すべての学校を施設一体型にすればいいかというと、そういうわけではなく、各学校の規模、地域特性等を考えた上で導入していくべきものと考えています。例えば、5年生から部分的に教科担任制を導入したり、中学校の先生が、小学生に積極的に関わったりすることは、今の庄内地域の子供達には、効果的な取り組みであると考えています。庄内地域の取り組みで得られた成果等は、北部や中部の学校に還元できればと考えています。</p>
<p>平成29年(2017年)6月からプレハブ校舎の工事が始</p>	<p>工事車両の侵入口は、主として現在パネルゲートが残ってい</p>

<p>まるということだが、第一期の時のように工事車両がどう入っていくのか等、決まっているのか。今回は正門からの出入りはないのか、前回と同じように入出入りするの、教えてほしい。</p>	<p>る所を使用することを想定していますが、各校舎や施設の設備関係を繋ぐ工事が必要となりますので、工事内容によっては、正門の出入りが発生する予定です。</p>
<p>まちづくりについて、庄内に住んでいる人は、人が増えるようにしてほしい、と考えている。人が増えたらまちは賑わう。今回の構想は学校をまとめただけに見える。本来、学校の再編よりも、庄内の活性化構想を先に考える必要があるのではないか。</p>	<p>ご指摘のとおり、地域活性化のめざすところは人口増加です。どんな形で人口を増やすことができるのか、様々な角度から検討していきたいと考えています。今回の「魅力ある学校」づくり構想と、(仮称)南部地域活性化構想を進めるタイミングが結果として同時期になってしまっていますが、皆さまから様々な意見をいただきながら、検討していきたいと考えています。来年度には(仮称)南部地域活性化構想を作成する予定ですが、すでに、ご意見をいただくための検討を始めています。</p>
<p>北校、南校の校舎を新しく建てるとのことだが、予算面はどうなっているのか。</p>	<p>校舎を新築する場合、文部科学省の補助事業を活用するなどしてできるだけ市の負担を低減したいと考えています。校舎の建設方法については、計画策定後、新築やリノベーション等、様々な観点から検討していきたいと考えています。</p>
<p>7/17校舎を建てた後、残る校舎を取り壊すのはなぜか。</p>	<p>残っている3棟の校舎は耐震性を確保できていません。そのため、大地震が起きると倒壊の危険がありますので、取り壊す必要があると考えています。</p>
<p>起債を発行するとなると、未来にツケを残すことにならないか。</p>	<p>起債の利用については、一般的な財源の捻出方法の一例として説明させていただきました。起債は、ご指摘のとおり、分割払いですが、今ここで教育環境を整えて、課題が解消できれば、結果的に、社会で生きていくために必要な力をそなえた子どもが育ち、将来、この庄内地域に戻り、地域の担い手となれば、未来への有効な投資になると考えています。</p>